

再評価結果（平成18年度事業継続箇所）

担 当 課：国道・防災課

担当課長名：鈴木 克宗

事業名	一般国道178号 養老伊根バイパス	事業区分	改築	事業主体	京都府
起終点	京都府宮津市岩ヶ鼻～与謝郡伊根町平田	延長	4.7km		
事業概要					
<p>一般国道178号は、舞鶴市を起点とし宮津市、伊根町、京丹後市と丹後半島の日本海沿岸地域を周回し、鳥取県岩美町に至る延長約196kmの幹線道路で、丹後半島地域の生活幹線道路であるとともに、地域の商工観光等、地域の活性化を図る上で重要な路線である。</p> <p>本路線のうち、宮津市岩ヶ鼻から伊根町平田に至る区間については、道路幅員が狭く人家連担部では大型車の離合が困難なため、路線バスの前を先導車が常に走行しているなど通行の難所となっていることから、延長4.7kmのバイパス整備を行っているものである。</p>					
H3年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H5年度用地着手	H6年度工事着手		
全体事業費	110億円	事業進捗率	78%	供用済延長	2.3km
計画交通量	2,500台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.2 (残事業) 2.2	総費用 (残事業)/(事業全体) 23/128億円 (事業費: 20/123億円 維持管理費: 3/5億円)	総便益 (残事業)/(事業全体) 51/150億円 (走行時間短縮便益: 48/138億円 走行費用減少便益: 2/10億円 交通事故減少便益: 0.3/2億円)	基準年 平成17年	
感度分析の結果					
実施していない					
事業の効果等					
<p>緊急輸送道路としての機能が強化される。</p> <p>異常気象時通行規制区間(4.1km)が解消される。</p> <p>歩道の設置により安全性が向上する。</p> <p>冬季の安定した交通を確保する。</p>					
関係する地方公共団体等の意見					
聴取していない					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等					
伊根町の人口の推移					
平成2年国勢調査	3,586人	平成7年	3,361人	平成12年	3,112人
交通量の推移(全国交通情勢調査、24時間)					
自動車	平成2年 2,410台	平成9年	3,042台	平成11年	2,957台
うち大型車	平成2年 263台	平成9年	379台	平成11年	461台
地元要望					
昭和63年9月8日に「国道178号養老・伊根バイパス建設促進協議会(宮津市と伊根町の議会議員及び地元自治会役員等で組織)」が設立され、毎年、宮津市長・伊根町長・建設促進委員会会長の連名で「国道178号養老伊根バイパスの早期完成に関する要望書」が提出されている。					
その他					
・観光入込客数					
伊根町	平成2年 170,000人	平成9年	241,900人	平成15年	260,600人
・観光地の整備状況					
道の駅「舟屋の里 伊根」(H5)、浦嶋公園(H10)					
重要伝統的建造物群保存地区認定(H17)					
・自動車保有台数					
伊根町	平成2年 1,424台	平成9年	1,658台	平成15年	1,775台
事業の進捗状況、残事業の内容等					
工事：第1工区(2,300m)は12年8月に供用					

第2工区(2,400m)を工事中

伊根トンネル：平成16年11月貫通済(今年度完成予定)

伊根舟屋高架橋：下部工3基完成(全4基) 上部工架設準備中

(3径間連続PCラーメン箱桁橋)

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

長時間を要した理由

人家連担部の山地側に迂回するバイパス新設工事であるため
公函混乱により用地取得が停滞している地域があったこと
工事用道路の制約があること

事業規模が大きいこと

また、事業区間が長いため長期間を要している。

今後の見込み

平成19年度にL=1,920m(伊根トンネル、伊根舟屋高架橋)を部分供用(予定)

平成21年度に第2工区(L=2,400m)全線供用(予定)

施設の構造や工法の変更等

コスト縮減の実施

・15年5月の歩道幅員の見直しにより、第二工区については、歩道幅員を4.0mから2.5mに見直して事業を進めている。

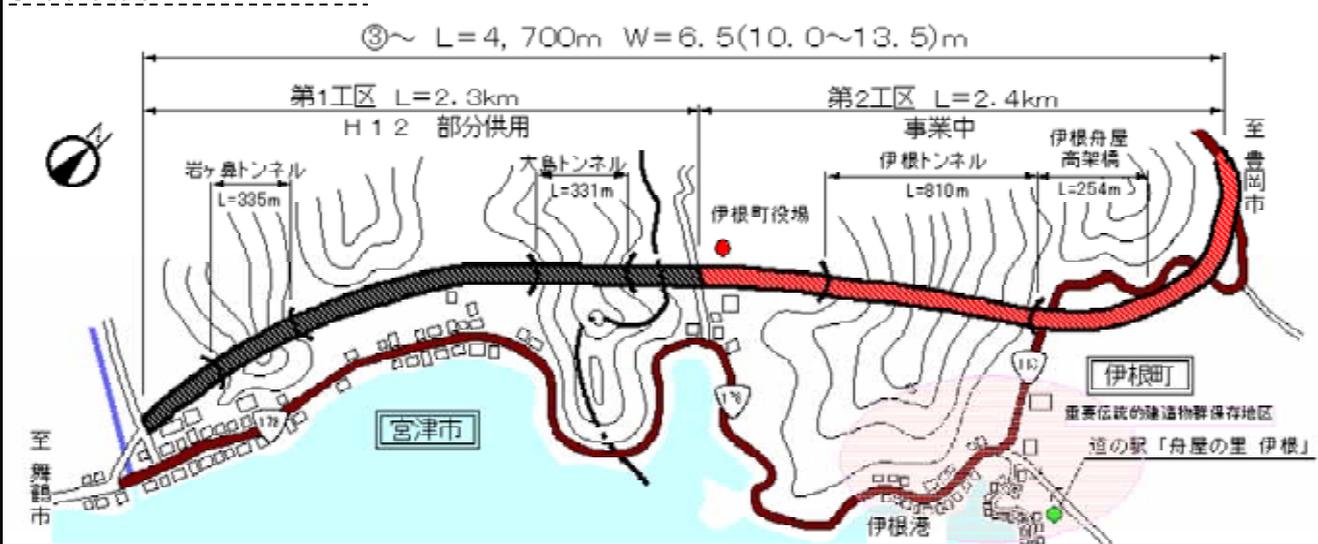
対応方針

見直し継続

対応方針決定の理由

事業着手以降、必要性の変化は認められず、総合評価として見直した計画で継続する必要がある。

事業概要図



総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。